

三、ハッサン・ラハヤ氏への授与式

1 ハッサン・ラハヤ氏への広島大学名誉博士号授与式

二〇一三年三月一六日、元南方特別留学生ハッサン・ラハヤ氏への広島大学名誉博士号授与式をインドネシア・ジャカルタ市のダルマプルサダ大学にて実施しました。

ハッサン氏は、一九四四年に当時の南方特別留学生招聘事業により来日し、一九四五年四月に広島大学の前身の広島文理科大学に進学しました。しかしながら、同年八月六日に広島市内で被爆され九死に一生を得ましたが、広島での勉学を断念せざるを得ませんでした。

帰国後、国会議員等を歴任して母国の発展に大きく貢献されるとともに、日本留学経験者が中心となって設立されたインドネシア元日本留学生協会（PERSAIDA）やダルマプルサダ大学の創設に深くかわり両国の友好関係の強化にも努めてくれました。また、自らの被爆体験を多くの人々に伝え、平和活動の推進にも貢献されました。これらの功績に対して、このたび、本学より名誉博士号を授与することとなりました。

授与式には、ハッサン氏の親族、インドネシア元日本留学生協会やダルマプルサダ大学等の関係者、本学修了生をはじめとして約一〇〇人が出席しました。上真一 広島大学理事・副学長からハッサン氏に対して名誉博士記が授与された後、祝辞が述べられました。その後のハッサン氏の挨拶では、ご自身の人生における日本との関わりに

I 広島大学名誉博士号授与の記録

ついて披露されるとともに今回の授与は言葉では言い表せない喜びであると述べられました。

続いて、自らも戦後賠償留学生の第一期生として日本留学経験のあるオロアン・シアハアン ダルマプルサダ大
学長及びパナソニック・ゴーベル・インドネシア等の会社を率いるラフマツト・ゴーベルインドネシア元日本留
学生協会会長からそれぞれ祝辞をいただきました。

最後に、鹿取 克章 駐インドネシア特命全権大使からの祝辞では、ハッサン氏が両国の友好関係の強化に努めら
れたことに対して謝意が伝えられました。

また、授与式の前日には、ハッサン氏を特別ゲストに迎えてジャカルタ市内のレストランで広島大学インドネシ
ア校友会を開催しました。ジャカルタ、スラバヤ、バンドン、マカッサルの各校友会長をはじめとして約四〇人の
同窓生、広島大関係者が出席して大先輩であるハッサン氏の名誉博士号授与を盛大にお祝いしました。

名 譽 博 士 候 補 者 調 書

フリガナ ラデン・ムハマド・ハッサン・ラハヤ
氏 名 Raden Muhammad Hasan Rahaya

出生地 西ジャワ州ボゴール

経歴・受賞等

一九四四年 南方特別留学生二期生として来日

一九四五年 四月 広島文理科大学（特設科）進学

八月 広島にて被爆

一九四七年 文部省教育研究所実習 東京文理科大学聴講生

一九四八―五一年 慶應大学政経学部本科

一九七〇―七五年 インドネシア国会議員 Janaluddin Malik 氏私設顧問

一九七六―八二年 インドネシア国会議長及び最高諮問会議議長 Idham Chalid 氏私設顧問

私設顧問

一九七七年―八二年 インドネシア国民協議会議員

一九八二―八七年 インドネシア最高諮問会議委員

二〇〇五年 日本政府より旭日中綬章を受章

業 績

ラデン・ムハマド・ハッサン・ラハヤ氏は、一九四四年に当時の国費留学生制度であった南方特別留学生として来日し、一九四五年四月に広島大学の前身校である広島文理科大学に入学した。しかしながら、勉学半ばして同年八月六日に広島市内で被爆。奇跡的に難を逃れ、被爆に苦しむ広島市民の救助に尽力した。当時、広島文理科大学で一緒に学んでいた南方特別留学生のニック・ユソフ氏とサイド・オマール氏は被爆死し、今も広島と京都で眠っている。後年、自らの被爆体験や広島での経験をインドネシア国内で伝え、平和活動の推進に大きく貢献した。

帰国後、同人は一九五六年に結成されたインドネシア・日本友好機関（LPID）の設立に関わった。同機関は、その後インドネシア・日本友好協会（PPIJ）と名称変更し、ジャカルタ、バンドン、ジョクジャカルタに日本文化学院（NBG）を設立し、日本語や日本文化の教育と普及に取り組んだ。

一九七〇年からインドネシア国会議員 Jamaluddin Malik 氏の私設顧問を務め、一九七六年に国会議長及び最高諮問会議議長 Itham Chaid 氏の私設顧問、一九七七年に国民協議会議員、一九八二年にインドネシア最高諮問会議委員などを歴任し、政治の場でも同国の発展と日本とインドネシアの友好関係の進展に貢献した。

一九八六年に日本留学経験者を中心にダルマ・プルサダ大学（UNSA DA）が設立され、同人はその創設にも深く関わった。同大学は、一九六三年にインドネシアの日本留学経験者を中心に設立された日本留学同窓会 PER

SADAとインドネシア・日本友好協会（PFIJ）を中心に、その活動に賛同する者、インドネシア政府、市民の協力を得て設立されたものであり、現在でも同大学は、インドネシア人学生の人材育成の場であると同時に日本的な価値観を普及する場としても機能しており、日本人や日本政府からも、インドネシアと日本との深い友好関係を示す財産として注目されている。二〇〇五年には同人の功績が認められ、日本政府より旭日中綬章の叙勲を受ける。

以上のように、同人は日本とインドネシアの友好関係の強化に努めるとともに同国での高等教育の発展にも多大に貢献した。また、被爆直後も広島市民の救助に尽力するとともに、帰国後も自らの被爆体験や本学での経験をインドネシア国内で伝え、本学の基本理念の一つである「平和を希求する精神」の実現に大きく貢献しており、本学の教育・研究並びに国際交流の推進に寄与した功績は極めて顕著であり、本学の名誉博士号の称号を授与すべき候補者として推薦するものである。

以上

I 広島大学名誉博士号授与の記録



**HONORARY DOCTORATE DEGREE AWARD
TO MR. HASAN RAHAYA FROM HIROSHIMA UNIVERSITY**

Date : Saturday, March 16, 2013
Place : Grha Wira Bakti, Darma Persada University
Jl. Radin Inten II
Pondok Kelapa, Jakarta Timur
Indonesia
Language : Jepang – Indonesia

Programme
Tentative schedule

No	Time	Description of Event	Annotation
1	10.30-11.00	Registration	Organizer
2	11.00-11.03 11.03-11.10 11.10 - 11.15 11.15 - 11.25 11.25 -11.35 11.35 - 11.40 11.40 - 11.45 11.45 - 11.50	- Opening remarks by MC - Curriculum Vitae of Mr Hasan Rahaya and the information of Honoris Causa conferment Doctorate Degree to Mr. Hasan Rahaya - Award of Honorary Doctorate Degree - Remarks by vice President of Hiroshima University - Remarks by Honoree - Remarks by Rector Darma Persada University - Remarks by chairman of PERSADA - Remarks by H. E. Ambassador of Japan for R.I.	MC Mr. S. Uye Mr.Hasan Rahaya Mr. O. P. Siahaan Mr. Rahmat Gobel Mr. Yoshinori Katori
3	11.50 - 11.55	Pray recitation *	
4	11.55 – 12.10	Commemorative Photo	
5	12.00	Lunch	

*Pray recitation : Kindly ask audience to arise for a pray recitation .

2 上 真一 広島大学理事・副学長からの挨拶

ハッサン・ラハヤ様、この度は本当におめでとうございます。

本学の名誉博士号を授与するにあたりまして、広島大学を代表して謹んでお祝い申し上げます。本来であれば学長が出席させていただくところですが、やむを得ない公務のため私が代わりましてご挨拶させていただきます。

鹿取 克章 駐インドネシア日本国大使、ラフマツト・ゴベル インドネシア元日本留学生協会会長、オロアン・シアハアン・ダルマプルサダ大学長をはじめとする多くの方々にご列席いただき誠にありがとうございます。

ハッサン・ラハヤ氏におかれましては、一九四四年に日本に留学され、一九四五年四月に広島大学の前身校である広島文理科大学に進学されました。しかしながら、人類史上類をみない恐ろしい災禍により、ハッサン・ラハヤ氏をはじめとする多くの人々が想像を絶する苦しみを経験されました。そのような状況においても、当時、広島文理科大学に在籍して奇跡的に難を逃れた留学生のみならず、災禍に苦しむ広島市民の救助のために尽力されました。このことに対して、私は広島市民に代わりましてあらためて心よりお礼申し上げます。

ご帰国後は、母国の発展に大きく貢献されとともに、日本との友好関係の強化にも努めてられました。また、自らの広島での体験を多くの人々に伝えられ、平和活動の推進にも貢献されました。これらの輝かしい功績に敬意を表して、今般、名誉博士の称号を授与させていただくこととしました。

また、ハッサン・ラハヤ氏は、勉学を志して日本に留学をされましたが、志半ばで勉学を断念せざるを得なかつ

たことは誠に無念であったことかと存じます。その意味でも本日ここに、かつての学び舎である広島文理科大学を母体として創設されました広島大学から名誉博士の称号を授与させていただくことを大変喜ばしく思っております。

現在、広島大学は、一一学部、一一研究科、大学病院などを有する日本でも有数の総合大学へと発展しました。私どもはハッサン・ラハヤ氏をはじめとする多くの諸先輩方が築き上げられてきた誇りを継承するとともに、また、人類史上最初の被爆地である広島の地に新たに生まれ変わった大学として、基本理念の一つに「平和を希求する精神」を掲げて、平和活動の推進にも力を入れております。二〇一一年からは本学に入学する全ての学部学生を対象に平和科目を必修科目にして、授業を通じて絶えず平和について考えさせる機会を作っております。

私どもは、ハッサン・ラハヤ氏が広島で抱かれた勉学への志や平和への思いを風化させることなく、本学の若い学生たちにも伝え続けて、更なる発展を続けていく所存ですので、今後ともお力添えをいただきたくお願い申し上げます。

最後となりましたが、これからのハッサン・ラハヤ氏のご健康とご活躍を祈念し、私の挨拶の言葉とさせていただきます。

この度は誠にありがとうございます。

3 ハッサン・ラハヤ氏からの挨拶

本日はお忙しいところ幸せに満ちた本会場にお集まりいただき、皆様には心から感謝申し上げます。

特に、司会者が言われましたように、広島大学の方々におかれましては、私に名誉博士号を授与するために遠いところ広島からジャカルタまでお越しいただき、感謝の言葉もございません。

私はハッサン・ラハヤといえます。九〇歳になります。

先日、ダルマプルサダ大学を通じて、NHK（日本放送協会）からメールで次のような質問をいただきました。なぜ、あなたは原爆が投下された時に広島にいたのかと。

そこで、この機会にこのことについて少しお話をさせていただきたいと思います。

当時、日本の占領軍であったジャワ軍政監部の要請により、私は一九四四年にジャワ出身の二〇名の青年たちと一緒に留学をするため日本へ派遣されました。

最初の一年間は、東京の国際学友会で日本語や漢字、その他の科目などを勉強しました。

日本語を一年間勉強して、私達はそれぞれの希望により各地に移動となりました。私も希望通りに広島に移動し、当時の広島文理科大学に入学しました。

一九四五年八月六日、朝八時一五分一七秒、私は強烈な爆発音を聞きました。それは言葉にできないほど凄まじ

く大きな音でした。その時、私は友人のアリフィン・ベイ氏と一緒に、正木教授の物理学の授業を受けていました。

爆風により私は教室の天井に吹き飛ばされ、しばらく気を失いました。意識が戻った時には頭から血が流れていることに気づきましたが、とにかく友達と一緒に教室の割れたガラス窓の隙間から脱出しようと思いました。正木教授は建物の壁の下敷きになって亡くなっていました。私たちは、授業の時に大きなピアノの近くに座っていたので助かりました。

私たちは、爆発によって家や学生寮、学校、事務所などの多くの建物が破壊されているのを見て大変驚きました。

外にいた住民は爆風で空中に投げ出され、最初の数分で放射線により被爆しました。

とても恐ろしい周囲の状況を見て、私たちは恐怖を感じながら学生寮へ走っていきました。しかし、他の建物と同じく私達の住んでいた学生寮も倒壊していました。

周りには多くの人々が助けを求めていますでしたが、残念ながら私達には崩壊した建物に挟まれたサガラさん一人を助けることしかできませんでした。

周囲から凄まじい炎が迫り、更に強風で煽られて炎はあっという間に広がりました。私たちは、その火災のためあまり身動きが取れず、周りの人々を助けることができませんでした。私達一人は生き延びるために寮の前に流れている川に飛び込み、その川にある橋の下で火災から身を守りました。炎が襲って来る度に水中に潜り、それを五時間くらい繰り返しました。一六時頃に火災が収まり、私達は川から上がりました。その時、広島市の三分の二が燃え尽き、地面が平らになっているのを見て大変ショックを受けたことを今でも覚えています。

すべての建物が焼失して一面が平らになっていたの、私たちはどこへ行けばよいのか分からなくなり、休むた

めに空き地に向かうことにしました。

この後の被爆体験の続きは、これから皆様にお配りする WARNA & SUARA RAKYAT をご覧下さい。

私自身は東京の慶應義塾大学を卒業した後に、日本の大学で勉学を終えた三〇人の学生達と一緒にインドネシアに帰国しました。

日本留学経験者同士の交友関係を維持するために、私たちは元日本留学生の会を立ち上げ、月に一回の会合を行いました。その会合では、日本とインドネシアの友好関係をどのようにすれば継続できるかということを考える機会でもありました。

また、インドネシア元日本留学生協会（プルサダ）を設立するための第一歩として、日本留学経験者が力を合わせて日本語を学びたい人のために日本文化学院を設立しました。日本に興味を持っているインドネシアの若者は意外と多く、学生は政府関係の職員や警察官など幅広い職業の人達でした。一〇年後にこの学校の管理と運用を後輩達に委ねました。

日本文化学院はダルマプルサダ大学設立の原点となり、後輩達と力を合わせて約一二名が先駆者となってダルマプルサダ大学を設立しました。

プルサダ会員から集めた約五千万ルピアを資金としてダルマプルサダ大学が開学しました。

ダルマプルサダ大学には、元首相の福田赳夫氏がお越しになったことがあり、その後、天皇・皇后両陛下もご訪問されました。

インドネシアと日本の国交樹立五〇周年の友好年には、秋篠宮殿下・同妃殿下もダルマプルサダ大学をご訪問され、同大学が少ない資金で設立されたにもかかわらず、日本とインドネシアの友好関係に大きく貢献していること

に大変驚かれました。

ダルマプルサダ大学はプルサダ会員の人生の記念碑です。私が知っている限りでは、アセアン諸国の中で日本留学経験者が設立した大学というのは本学以外にはありません。

皆様、日本とインドネシアの友好関係を築くためには、個人と個人の関係を忘れてはいけません。その中には、日本人女性と結婚したインドネシア人男性の約一五〇組が含まれており、幸せな結婚生活を送っています。彼らの結婚がうまくいっているのは、日本人の女性が、

「住めば都」

「郷に入れば郷に従え」

という考え方を持っているからだと思います。

愛の力は強力なものです。

最後となりましたが、アメリカ人歌手が歌った「思い出のサンフランシスコ」という曲の中で「サンフランシスコに心を残して」と歌う部分があります。しかし、私にとっては「広島に心を残して」という言葉が響いてきます。

4 オロアン・シアハアン ダルマプルサダ大学長からの挨拶

最初に、全能の神様に感謝を捧げたいと思います。神様のご加護のお蔭で、私たちはこの場で健やかに、喜びと幸福に満ちた状態で集まることができます。

鹿取 克章 駐インドネシア日本国大使、上 真一 広島大学理事・副学長およびスタッフの皆様、マーザン・イスカンダル インドネシア技術評価応用庁（BPPT）長官、ハッサン・ラハヤ様およびご家族の皆様、ラフマツト・ゴーベルム ラティ・サクラ財団理事長兼インドネシア元日本留学生協会（PERSADA）会長およびスタッフの皆様、ダルマプルサダ大学の役員および教員の皆様、本式典にご出席の皆様、おはようございます。

本日はハッサン・ラハヤ様が榮譽ある名誉博士号を授与される機会に立ち会うことができ大変嬉しく思います。ダルマプルサダ大学の代表としてハッサン・ラハヤ様およびご家族の皆様には心から祝福の意を申し上げます。

科学技術の進歩の誤用で起こった原子爆弾による悲劇の生存者の一人として、ハッサン・ラハヤ様は前例のない大惨事の中、九死に一生を得ました。また、被爆で苦しんでいた人々を助け、留学生として素晴らしいお手本を示して下さいました。ハッサン・ラハヤ様はダルマプルサダ大学の誇りであり、本学の大きな家族の一員は皆、この度の名誉博士号を大変誇らしく思っております。

ご存じのとおりハッサン・ラハヤ様はダルマプルサダ大学の創設者の一人であり、本学をここまで大きくして下

さった方でもあります。私たちはこの場をお借りしてハッサン・ラハヤ様にあらためて感謝の気持ちを申し上げますたいと思います。ハッサン・ラハヤ様が示して下さった公へのご奉仕・ご貢献という貴重なお手本を、ダルマプルサダ大学の教員および学生の皆様も見倣うことができますよう心掛けております。

また、ハッサン・ラハヤ様が、本日の名誉博士号の授与式の間としてダルマプルサダ大学をお選び下さったことにも感謝申し上げます。

上 真一 理事・副学長およびスタッフの皆様におかれましては、広島大学の代表として私たちのキャンパスにお越し下さり歓迎申し上げます。また、ダルマプルサダ大学の大家族の一員であるハッサン・ラハヤ氏に名誉博士号を授与下さり深く感謝申し上げます。本日の授与式のために皆様がここにお集まり下さったことが、ダルマプルサダ大学が目標とする日本とインドネシアの友好関係の構築につながっていくことを期待しております。

ラフマツト・ゴーベル様におかれましては、ムラティ・サクラ財団及びインドネシア元日本留学生協会（PER SADA）のご支援、ご協力によりダルマプルサダ大学が今日に至るまで成長することができたことに対して感謝申し上げます。また、本日の授与式の会場として信頼下さったことに対しても感謝申し上げます。

最後に、ダルマプルサダ大学の大家族の名をもって、皆様におかれましてはお忙しい中、キャンパスにお越し下さり誠にありがとうございます。本式典の開催にあたり至らないことがあった点につきましては深くお詫び申し上げます。

ハッサン・ラハヤ様およびご家族の皆様、本日の名誉博士号の授与につきましてあらためて心よりお祝い申し上げます。

げます。

皆様、ご清聴誠にありがとうございました。皆様のご多幸をお祈りいたします。

5 鹿取 克章 駐インドネシア日本国大使からの挨拶

ハッサン・ラハヤ様、ラフマット・ゴーベルインドネシア元日本留学生協会会長、オロアン・シアハンダルマ
ブルサダ大学学長、上 広島大学副学長、ご列席の皆様、 本日、日本・インドネシア二国間の友好親善に寄与さ
れたハッサン・ラハヤ氏に対する広島大学名誉博士号授与式にあたり、心よりお祝い申し上げます。

既にご紹介がありましたとおり、ハッサン・ラハヤ氏は、南方特別留学生として訪日され、広島文理大学在学中
被爆されるなど多大な困難な環境にありながら、日本留学を続けられ、苦学をして慶応大学を卒業されたと聞いて
おります。

インドネシア帰国後は、ハッサン・ラハヤ氏は最高諮問会議議員、国会議員、国民協議会議員を歴任されると共
に、豊富な日本での経験を生かしつつ政治家として、インドネシアでの対日理解、日本とインドネシアの政治・社
会の交流促進に大きく貢献されました。

また、東南アジア元留学生協会（ASCOJA）やダルマプルサダ大学の設立にも尽力され、日本とインドネシ
アの友好親善の基礎を作り上げると共に、その後も教育を中心とした様々な分野において日本・インドネシア関係
の発展に貢献されたと承知しております。

これらの功績が認められ、二〇〇五年には、旭日中綬章を受章されましたが、本日、プルサダの皆さんをはじめとする多くの方々がご出席されているのは、ハッサン・ラハヤ氏の輝かしい功績に加え、同氏の素晴らしいお人柄の賜だと思っています。

この場をお借りしまして、あらためてハッサン・ラハヤ氏が日本とインドネシアの友好親善及び様々なレベルでの交流の促進のためにご貢献されたことに対して深い感謝と敬意の気持ちをお伝えするとともに、ハッサン・ラハヤ氏及びご列席の皆様のご健康とご発展をお祈りしつつ私の挨拶とさせていただきます。